

中海は宝物

未来守りネットワーク活動記

<7>

2006年6月に第2回のアマモ種子採取イベント、同年11月にはアマモ種子移植イベントを開催しました。アマモの植え付け場所周辺の海岸清掃なども行い、ボランティアを含め多くの皆さんに協力していただくようになりました。各行政機関にもアマモ・コアマモ場の再生事業に協力を求め、少しずつではありますが理解され始めました。

そのころには未来守りチャイルドクラブのメンバーも30人になり、島根大学水産研究センターの國井秀伸教授のご好意により、水中カメラで前年に自分たちが植え付けたアマモ場を観

チャイルドクラブ

察しました。同時に中海のアマモの歴史や繁殖について、分かりやすく説明していただきました。

子どもたちはこのような体験から、アマモ場が中海の水質浄化や魚介類再生につながる一つの方法であることを学んでいきました。この年は、未来守りネットワークや未来守りチャイルドクラブのメンバーにとって、忘れられない年になりました。

アマモの水質浄化学ぶ

「中海・宍道湖ラムサール条約登録1周年記念大会が12月2日、境港市文化ホールで開催されました。々とアマモ場再生への取り組みを紹介し、大会最後の宣言文を発表したのです。記念大会では、子どもたちと鳥取、島根両県知事



中海・宍道湖ラムサール条約登録1周年記念大会で、大会宣言を読み上げる未来守りチャイルドクラブのメンバー＝2006年12月、境港市内

(当時は片山善博知事と澄田信義知事)の討論会もありました。そこで、チャイルドクラブのメンバーが「境港市の夕日ヶ丘団地に堆肥工場があつてとても臭いし、海は汚くて遊べません。海で遊べるようになりませんか？」と質問しました。

司会者がこの質問を片山知事に振ったところ、片山知事は即座に境港市の中村勝治市長に振り替えたのです。中村市長は満面の笑みを浮かべながら「近いうちに移転できるようにします」と力強く答えられました。

その言葉通り1～2年後に堆肥工場はなくなり、今ではアマモやアサリが生息可能な海域に回復しているのです。まるで、子どもたちが少しずつ成長するように。(未来守りネットワーク理事 長・奥森隆夫)